東京学芸大学
ヒューマンライブラリー
2026



東京学芸大学 explayground ラボ

ヒューマンライブラリーは、在日外国人、障がい者、セクシュアルマイノリティなど、生きている「本」と「読者」との対話を通して、多様な生き方を認め合う、多様性に開かれた社会の実現を目指すイベントです。生きた「本」のタイトル、あらすじは、本ちらし 2，3 ページにあります。5 冊まで本を借りられ、30 分ずつお話しできます。下記予約フォームで希望する「本」を予約してください。

日時：12 月 13 日（日）12:30～17:30

場所：東京学芸大学 N 棟（中央 4 号館）3 階教室
主催：東京学芸大学ヒューマンライブラリー2026 実行委員会（代表：岡　智之）
共催：東京学芸大学ダイバーシティ・インクルージョン推進本部
後援：小金井市教育委員会、東京ヒューマンライブラリー協会
協賛：東京学芸大学教職員組合
問合せ先：東京学芸大学国際交流／留学生センター　岡　智之 okatom@u-gakugei.ac.jp

東京学芸大学ヒューマンライブラリー2026申し込みフォーム

東京学芸大学ヒューマンライブラリー2026 申し込みフォーム – フォームに記入する

東京学芸大学ヒューマンライブラリー2026「本」のタイトル、あらすじ一覧

＊下記の「本」を 5 冊まで借りられ、30 分ずつ対話できます。

作者名	タイトル	あらすじ
ポヤ　ナジャ <NEW>	奪われた教育と希望―アフガニスタン女性の声を日本から届ける	タリバン政権下のアフガニスタンで、教育を受ける権利をはじめとする当たり前の人権を奪われる絶望と困難を経験しました。命がけで国を逃れ、現在は日本の大学で学びながら、今も現地で抑圧に耐え続けるアフガニスタンの女性や子どもたちの現状を伝えています。私が乗り越えてきた経験と、いま世界が知るべきアフガニスタン女性のリアルな声をお話しします。
シュレスタ <NEW>	最近日本でネパール人が増加しているわけは？	ネパール出身で 2003 年に来日し、研究・教育や多文化共生の活動を続け、現在は CE HUMAN RESOURCES 株式会社代表取締役を務めるシュレスタ・ブパール・マン氏が、ネパールの文化・社会や人々の暮らしを紹介します。そのうえで、なぜネパール人が日本を選び、増加しているのか、その背景と日本社会との共生について考えます。
徳光みく <NEW>	Self Wedding ～結婚しないと決めた私が結婚式を挙げるまで～	固定的で、閉鎖的で、排他的。そんな結婚が当たり前、それを祝うのが当たり前の社会が気持ち悪くて仕方ない。実際私は、友人からの結婚式の招待もボイコットしていた。しかしそんなことをしていても、誰も幸せにならない。他人の幸せを否定するのではなく、自分の幸せを全力で肯定しよう。そうして私は自分の人生を祝福するために、一人で結婚式を挙げることにした。本当の願いは単純で、ただちやほやされたいというものだった。
あんりら <NEW>	告げ口できないこどもたちの虐待と性被害	激しいネグレクトの末に 4 才で施設に保護されました。60 代の親戚夫妻の家へ引き取られてから始まる性的虐待と暴力や監視の日々。どうしてこどもたちは世の中の大人へ助けを求められないのか。あなたがもし身近なこどもに「助けて」と言われたらどう行動しますか？あなたにはその声が届きますか？
中嶋秀昭 <オンライン>	国際協力を仕事にすること	米国のトランプ政権による国際開発庁（USAID）の解体や排外主義の台頭、紛争への対応強化（軍拡）などによって国際協力（人道援助・開発援助）の予算が減少しています。他方、昨年は紛争などで国内避難民や難民などの故郷を離れざるを得ない人々はほぼ日本の人口と同じ 1 億 2 千万近くに増加しており、1,400 件以上の医療への攻撃が起こっており、350 人以上の援助関係者が殺害されています。私は援助関係者の一員ですが、こうした現状についての考えや思いについてお伝えします。
長江春子	戦争の疼きを引き継ぐ	日中戦争が終わって 80 年、もう忘れられようとしているが、その疼きを引き継いだ人たちのことを知っていますか。戦後世代語り部が語り継ぐのは中国残留婦人や孤児が置き去りにされた経緯や帰国までの苦難であることが多いが、帰国後に彼らを待っていたのは何か、その二世がどのような山や谷を辿るのかも知っていただきたい。コロナ禍をきっかけに自伝『小春のあしあと』（Amazon）に綴り、自らを語ることにした私が願うのは、NO MORE WAR!
小室敬子	クルド人の子供はどのように日本語を学ぶのか。	私はクルド人のために地域の日本語教室を９年間運営している。それは、全てボランティアで行っている。親の都合で日本に連れて来られた子供たちは、日本の学校に通っているが、親のサポートがない外国人の子供は日本語の習得に苦しんでいる。中学生は高校に進学する学力が身につかない生徒もいる。私が日本で感じた外国人の悲しみや苦労をみなさんに聞いて欲しい。

佐藤悠祐	ありのままでは生きづらい社会の中で。	幼少期に自身の性別に対する認識が人と違うと分かってから、自分らしさというものをひた隠しにし、年齢を重ね、友人や関わるネットワークが広がってもなお自分の本音を偽ったまま生きていました。戸籍の性別を変更し、周囲にカミングアウトをしながら介護という仕事をしていますが“ありのまま生きる”ことの難しさを痛感しています。それでも。この社会の中で生きていくためのお話です。
ひらり	トランスジェンダー女性　レズビアン（「T」且つ「L」）の苦悩	「体の性が男性で恋愛対象が女性」という、傍目からはごく普通の男性にしか見えない、結婚も子作りも可能な私。しかし、トランスジェンダー女性「T」且つレズビアン「L」といった複数のマイノリティ性をあわせ持つダブルマイノリティの存在やニーズが世間ではあまりよく知られていないために、その稀有な生きづらさを気軽に相談できる相手がほとんどおらず、生活場面では一人で思い悩むことも多々あります。
ナカヤマアキト	手話とは何か？ろう者としての言語と歴史	手話はしっかりとした言語であり、ジェスチャーとの違いを明らかに分かる仕組みを体験してみませんか？手話話者も色々なタイプがあって育ちや環境によって表現も異なります。耳が不自由であっても聴者と同様に日常生活を送ることができます。そういった世界を少しでも知ることで視野が広がるかもしれません。
大谷重司(おおたにじゅうじ)	ベンチプレス世界チャンピオンの実態	1.現役の健常者チャンピオンは眼が見えない68歳の男です。 2023年３月の全国大会でも健常者の試合で優勝。 2.　いろんな場面で視覚障碍者は世間から分離されています。図書館でも点字図書。スポーツをするにも障碍者専用のスポーツセンターがあります。その実態に疑問を持ち続けていました。 3.　町内でのスポーツジムへの参加。これだけで喜びは完結していました。 4.　可能性を見つけられたこと。限界を捨てることの意識の変化。
小山祐介(コヤ)	なりたい自分になれなかった君へ～いまぼくが思うこと～	システムエンジニアとして勤めていた 24 歳のとき、残業 100 時間以上の超過労働、常駐先のパワハラが引き金となって鬱を発症しました。ある日の１本の電話で救われ、小説家を目指しながら働くも上手くいかず、10 回近く転職。人との出逢い、便器アートやエンタメを通じて実体験を活かした起業の機会をいただくも、挫折。コロナ禍以降の一人暮らしで幾度とない自己嫌悪や体調不良(体重 11kg 減少)などを経ていま思うこと全て、お話します。
浜田有子	見えない障害、隠れた障害。その本音は？	オープンにするか、クローズにするか。「分かりにくい障害」の方々と出会う中で、私自身も脳梗塞による高次脳機能障害を抱えながら働き続けています。今年、日本の障害者法定雇用率は 2.7%へ引き上げられましたが、米国、英国、北欧などは差別禁止法で導入していません。今年 4 月に成立した「高次脳機能障害者支援法」により、社会はどのように変わっていくのでしょう？「健常」の境界線とは？リアルな現状をお伝えします。